



■記念式典で来賓や関係者に挨拶する横尾市長

財団法人孔子の里（理事長・横尾俊彦市長）設立20周年記念式典が、2月4日多久シティホテル松屋で行われました。式典では、多久聖廟釈菜や文化振興に貢献・尽力した方々への表彰（75個人と3団体）や記念講演、祝賀会が催されました。財団法人孔子の里は、多久市ふるさと創生事業によって出資された資金7千万円を基本財産とし、重要文化財多久聖廟の管理運営と地域文化の振興、特色ある地域づくりを目的に平成2年2月に設立されました。

現在では恒例となった春と秋の多久聖廟釈菜の「釈菜の舞」や「腰鼓」「獅子舞」「献吟」「幼児太鼓」「幼児論語朗誦」「花棒舞」「参列生徒の唱歌」を新たに導入し、子どもから大人まで参加する伝統行事・釈菜となっています。

また「孔子の里ジュニアガイド」の創設、「通学台宿」や「論語カルタ大会」「全国ふるさと漢詩コンテスト」などの企画事業を展開。多久市の文化教育振興と地域の国際交流活動を推進する中核組織としても活動しています。

横尾市長は「論語教育で孔子の里が多久の人づくりの一端を担い人材育成に貢献できれば」と話しました。

多久市文化連盟 文化功労者表彰

平成22年度の文化功労者表彰式が2月19日、中央公民館で行われました。



受賞者は次の方々です。（敬称略）

芸術文化功労賞

寶藏寺壽一（音楽協会）
池田 照美（文化スタッフ多久）

芸術文化賞

緒方 達幸（音楽協会）
小園 弘昭（音楽協会）
東郷 五月（多久市華道会）
松尾由利子（多久市華道会）
長尾 茂男（多久市囲碁将棋連盟）

市長コラム

温 | 故 | 創 | 新

Message for citizen

もつひとつの二十歳

「孔子の里」二十周年

市長 横尾俊彦

予算や企業誘致などの「営業」の時、初対面で名刺を差し出し、最初の言葉を交わす。

「多久市長の横尾俊彦です。公私（孔子）ともよろしくお願いします。すると相手は笑顔で「面白い。座って話を伺いましょう。ところでなぜ多久は「孔子の里」なのですか」と続く。その後はしつかり多久をアピールする。そのように僅かな時間も良縁にできるのも孔子様のおかげである。論語談義が御縁の絆を強くしてくれる。

多久市と孔子の御縁は三世紀前の聖廟建立に始まるのは皆様ご存知の通り。その聖廟保存と祭典運営や関連事業等を担い、伝統文化継承、生涯学習進展などのため財団法人孔子の里は創設され、二十周年を迎えた。

ふるさと創生基金を元に、篤志家寄附で財団は本格設立。多久出身で事業経営に活躍し、故郷を常に大切に思われた故曲淵喜和太氏は多額の寄附をされた。謙虚で厳格なお人柄が懐かしい。廟山文庫を遺された大塚巴一先生の献身も貴重だ。平成の大改修で瀬戸口六良氏は寝ずの番をされたとも。孔子直系子孫の孔徳懋女史のご厚情、北京の中日友好協会の配慮など多くの支えもあった。この間、論語カルタ、釈菜の舞、獅子舞、腰鼓、花棒舞等も導入され、創建三百年祭も行われた。

二十周年の節目の式典でそれらの貢献に改めて感謝の念を強くした。「仁」「恕」が大切とされる現在、ここ多久から未来を開く一助となりたい。